

発刊挨拶

発刊にあたり



代表取締役社長
技術開発本部長

山本 厚生
Yamamoto Astuo

昭和27年『鋼塊鑄型の修理法』の技術発明により富士工業所を創設、以来『自らの創造開発を基に、社会に貢献し、もって自らの興隆を図る』をモットーに、技術開発を最重点として企業経営を営み、お陰をもちまして創業41年を迎える事ができました。

これはひとえに、皆様方のご指導ご鞭撻の賜物だと、心より感謝申し上げます。

昨年の40周年を機に、(株)富士工業所を(株)フジコー(FUJICO)に社名変更し、多角的総合技術力を有する一貫責任体制の持てる技術集団を目指して運営してまいりました。又この一環として『技術年報』の発行をする事を決意し、この度ようやく創刊の運びとなりました。

ひととけば鋼塊鑄型の修理、いわゆる溶接補修(肉盛り)技術からスタートした弊社の技術は、各種の溶接ならびに溶射技術、溶接材料の製造技術、メッキなどの表面処理技術、さらにC.P.Cをはじめとした特殊鑄造技術など、技術の質と幅を広げ複合製品の製造分野において、多角的かつ専門的技術を有するユニークなメーカーとして成長してまいりました。

また製鉄所構内の常例作業部門は、鑄型修理作業から機械保全整備、さらに設備の据付工事と技術を修得し、現在では産業機械の設計ならびに製作までその幅を広げ、設計・製作・据付・メンテナンスの一環サイクルを実施出来る、一貫責任体制のとれる総合エンジニアリング企業としての道を歩みはじめております。

思い起こせば、昭和48年のエネルギーショックを境として、鉄鋼界は造塊から連続鑄造へと急速に技

術革新を実行し、弊社の主体事業であった鑄型修理作業は当然のごとく激減し、創業以来の経営危機に直面する事となりました。

しかしながら、結果的にはこの事が弊社の技術多角化ならびに専門化に拍車をかけるきっかけとなり、後ろに火が付いているだけに必死に保有技術の新たな活用と応用を考え、製鉄所構内では補修保全から機械保全整備、据付工事へ進出、弊社工場では多くのユニークな新製品の開発が実施され、事業の多角化によりこの危機を乗り越えました。現在さらに技術は多様化しておりますが、いずれにしても経営の危機を乗り越えられた大きな要因はやはり技術力であり、この時ほど技術の重要性を感じた事はありませんでした。

フジコーに社名を変更しても、創業以来の技術最重点の考えは変わりません。フジコーの目標は、あらゆるユーザーのあらゆるニーズに対応出来る、多角的かつ高度な技術集団を作り上げる事、フジコーでなければと言われる信頼度の高い企業体を作る事です。

今年から発刊される「フジコー技報」が、弊社の技術開発の活性剤になり、学会、協会での活躍、官学共同研究や多くの技術開発として開花し、回を追うごとに技術内容が向上するように、フジコー技術陣、総力を上げて頑張る覚悟でございます。

弊社の『技報』が皆様方に少しでもフジコーの技術を知っていただくチャンスとなり、かつ又フジコーの技術が皆様方のお役に立てる事があれば幸でございます。